

で、重粘土地域では荒廃農地が顕著である。

## 愛知県蒲郡市の地理学的考察

中村 英子

蒲郡は、知多半島と渥美半島に抱かれる三河湾の北岸に位置する。それは名古屋の南東約45kmの地点である。

平野部は、東、西及び北側を木曾山脈から連なる三河高原の南の端にあたる山地に囲まれ、南側を三河湾で限られており、その形は、東西方向の海岸線を直径とするほぼ半円形状である。地形的にはこの平野は背後の山地に起因する土石流扇状地で急傾斜をとつて三河湾に幅入でいる。この平野の東側は海抜約58mの砥神山とそれに続く100m内外の山地で豊橋平野と分かれ、西側は幡豆山地と呼ばれる中起伏山地により矢作川の低地からさえぎられている。

気候は地理的位置と、前面に海をもち三方を山地で囲まれているという地形の影響で、きわめて温暖である。昭和37年の年平均気温が15.2°Cで伊良湖岬よりやや高く、蒲郡は愛知県の中でも最も高温な地域にはいる。年降水量は、平野部で約1700mmあり、日本の中でも決して少ない方ではないが、ここは扇状地性の平野で土性があらいため、利用可能な水量は必ずしも十分とは云えない。

このような自然環境のもとに、蒲郡には、農業、水産業、工業、観光業など多彩な産業が発達している。平野の最前面を、三谷、西浦、形原港を基地とする漁業、大塚海岸、堀津海岸のノリ養殖業などの水産業と、竹島、大島大塚海岸、三谷温泉、西浦温泉などを中心として発達する観光業が占め、その背後の蒲郡町、三谷町の市街地を含む地域には綿織物工業、形原の麻織工業などの工業地域が連なる。さらにその背後が、専業的な農業地域となつている。最後部、最も山地寄りに位置を占める農業地域は山地沿いの一帯がみかん栽培地域、その内側が畜産や一部みかん栽培を組み合わせた多角的な園芸農業地域との二地域に分けられる。それでは、この総面積およそ50km<sup>2</sup>、人口8万余の小さな都市域おこゆかに多彩な産業が発達しているのは、どのような原因によるものであろうか。まず第一にあげられるのはやはり、自然条件への適合であるがその他、東海道本線沿ひにあつた蒲郡の二大中心地東京と大阪の中間的な位置を占め、名古屋に近いという地理的位置の有利性、近世における産業の隆盛などが挙げられる。

元来、蒲郡市は耕地に恵まれず、とつぱら、機業、養蚕業によつて余剰労力を処理してきたが、三谷、形原、西浦においては、その自然の地形にさいわれいされて、漁業が発達した。特に三谷では徳川時代から海運業と大いにさかえ、諸大名の参勤交代の際にはその海上輸送をつとめた。

機業は、農家の副業としてではあるが、近世において、かなり盛んに行われており、綿織物はこの地方の特産物として知られていた。それが明治に入ると、マニファクチャの形態をとつて專業化され、たちまちのうちに三谷、蒲郡町一帯にひろがつた。この三河織物業が三谷の町から発達したかげには、前述のような漁業、海運業による富の蓄積があつたことと考えられる。

一方、形原でもやはり、徳川時代の幕府の捕縄づくりが基となつて麻綱工業が起り、それが今日まで、進歩した形態でひきつがれている。

明治27年に東海道本線が開通すると、これらの工業は、製品の販路を大巾に拡大し、ますます発達してきた。

また東海道本線の開通により、多くの観光資源が開発され、新興の観光地としても注目されるようになった。名古屋から国電で一時間余、中京工業地帯から多くの観光客をひきつけており、観光業と工業とをならんで蒲郡の最も重要な産業の一つとなっている。

農業の方では、温暖な気候と緩傾斜地を利用して、みかん栽培や高等園芸農業が行われ、名古屋の近郊農業地域として、また市内の観光地や都市部への生野菜や畜産物の供給地としても大きな発展をみせている。

このように、自然条件、地理的位置の有利性、産業発達の厂史的背景などが結びついて、蒲郡市という狭い面積の中にいろいろな産業が発達しているのであるが、これらは相互に何の関係もなく別個に発達して、雑然と入りみだれて成立しているのではなく、今見てきた通り、お互いほとちつとたれつしながら発達してきたのである。

この産業に見る多彩性と各産業の名古屋との強い結びつきが、蒲郡の地域的特性を最もよくあらわしているものである。

現在、東三河一帯の工業開発計画が進められているが、蒲郡でも、その計画の一環として、工業用地の埋立てが行われており、すでに埋立てを終わったところもある。この計画は、豊橋、田原の臨海部に鉄鋼、機械などの重工業部門を立地させ、蒲郡地区には近代設備をとつた食品、木材工業を配置しようとするものである。それは、蒲郡の恵まれた観光資源の保存に重点をおき観光都市としての機能を主体として、現在立地している工業の伸びを考慮し観光目的を阻害しないような工業立地による生産都市的機能を果たすべきであ

るという考え方からきているものである。

昭和45年以降、蒲郡地区、大塚地区の埋立が完了すれば、ここは東三河臨海工業地帯の一翼として、軽工業部門をにない、蒲郡港はこの地域の唯一の商港としての機能を果たすようになり、重商都市としての発展が期待される。それと同時に、東三河臨海工業地帯、中京工業地帯のインダストリアルパークの役目を果たす都市としても発展することであろう。

## 御前崎地方の地理的性格に関する 考察(要約)

長松 睦子

この卒業論文の目的は、ある一地域を選び、その地域の持つ性格を明らかにすることである。3年間に習得した知識や方法(といつても、4年になつて卒業論文を書きはじめたからといって身につけた知識や方法とかなり多いのであるが)を総動員して調査を行い且つそれをまとめるのであるから、卒業論文は、いわば、総しめくり的な勉強であり又総合的な練習であると言える。私はさういつた勉強の場として御前崎地方を選んだ。理由は、この地方が色々な問題点を含んでいると思つたこと、比較的東京に近いこと、先輩の方々の調査地域にとれてきたことなどである。

構成及び大まかな内容は次の通りである。

序文、地域選択の理由、着眼点、扱い方補え方。

### 第一章 自然概観

① 自然的な位置 ② 気候 ③ 地形、地質 の三節につき、御前崎

地方を中心に考察。

### 第二章 地形区分

地形調査は御前崎から菊川に至る遠州灘沿岸地域について行った。周囲の地形との関連のもとに調査した方がより正確にわかりやすく、御前崎地方の地形が理解できると思つたか

